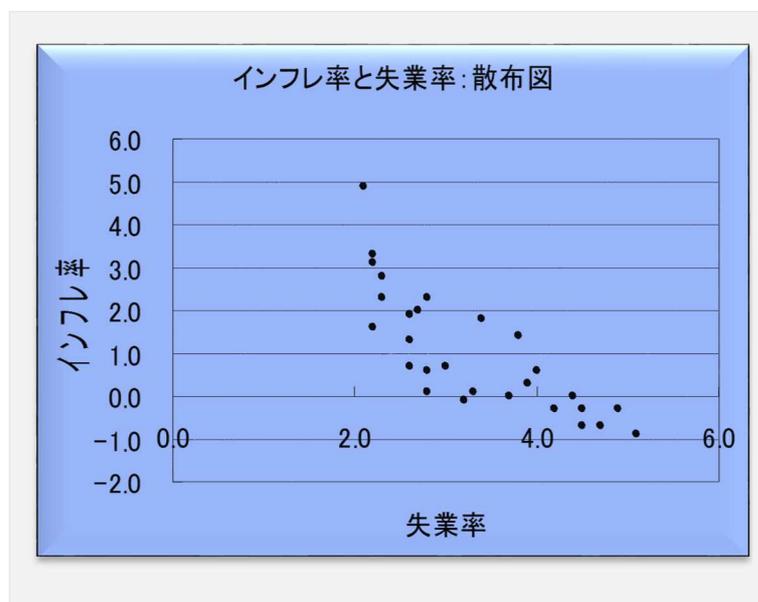


Teaching Portfolio

2016



第5回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2016年3月4日(金)～6日(日)

佐賀大学 所属 経済学部経済学科
氏名 中村 博和
nakamurh@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任	1
1.1. 授業科目の担当	1
統計学入門	1
基本統計学	2
入門ゼミ	2
1.2. 教育組織運営	2
2. 教育の理念	2
3.1. 理念1 必要なスキルは身につける	3
3.2. 理念2 思考のスタイルをつくる	3
3.3. 理念3 社会に関心を向け考え学んでいく姿勢を身につける	3
3. 教育の方法	4
4.1. 方法1 スキルの重視	4
4.2. 方法2 思考するスタイルを意識させる	4
4.3. 方法3 社会とのつながりを意識させる	4
4. 教育を改善するための努力	6
5.1. 改善努力1 大学の授業アンケートと授業改善報告	6
5.2. 改善努力2 学生の学力、学んできたことを知る	6
5.3. 改善努力3 FDの参加、学生と大学の授業のことを話す	6
5. 教育の成果・評価	7
6. 今後の目標	7
7.1. 短期目標	7
7.2. 長期目標	8
7. 添付資料・参考資料	9

1. 教育の責任

佐賀大学での私の教育責任は、経済学部での専門科目、経済学研究科での専門科目、全学教育機構での教養科目の担当である。また、過去4年間は教務担当副学部長として教育実施の統括を行ってきた。

1.1. 授業科目の担当

学部過去3年間に表のような科目を主としておこなった。

科目名	開講年度	人数	備考
国際経済社会論	2015 後期	3 人	学部選択科目
統計学入門	2013－2015 後期	平均 150 人	学部選択科目
基本統計学	2014－2015 前期	平均 150 人	学部選択科目
基礎演習	2014－2015 後期	平均 7 人	学部必修科目
演習 3 年	2013－2015 前後期	平均 7 人	学部必修科目
演習 4 年	2013－2015 前後期	平均 7 人	学部必修科目
入門ゼミ	2013－2015 後期	平均 18 人	学部必修科目
経済数学Ⅱ	2013－2015 前期	平均 30 人	学部選択科目
外書講読	2014－2015 後期	平均 15 人	学部選択科目
大学入門科目Ⅰ	2013－2015 前期	平均 18 人	教養必修科目
リサーチリテラシーⅣ	2015 後期	60 人	教養必修科目 5 コマ
時系列解析研究	2014 後期	1 人	研究科科目
総合セミナー	2013－2015 前期	8 人	研究科科目

教育担当としては、学部が主要なものとなっている。学部専門科目の統計学入門、基本統計学、入門ゼミ、基礎演習、演習（3年、4年）が経済学部のカリキュラムでの位置付けからみたとくにとくに重要な科目である。このうち統計学入門、基本統計学、入門ゼミについて授業の学部カリキュラムでの位置づけは以下のとおりである。

統計学入門

佐賀大学経済学部は経済学科、経営学科、経済法学科の3学科から構成されている。学部の教育目標は経済学、経営学、法学をそれぞれ柱としながら3分野の総合的な教育を行うことにある。統計学入門は1年生対象の学部入門科目であり、学科を問わず選択できる科目である。

基本統計学

基本統計学は経済学科基礎科目であり、2年生を対象とし開講している。経は実証分析が重視される領域も多く、それに対応できることを授業の目的としている。

入門ゼミ

佐賀大学では初年次に大学生活・学習のための入門科目をして大学入門科目Ⅰが必修となっている。入門ゼミは経済学部が大学入門科目に続いて行う経済学部専門科目の大学入門科目として開講している科目である。

学部・研究科での教育以外の教育実施は以下のようなものがある。

- ・2014年9月高校での授業：鹿児島県立出水高校 2年生 10人
裁定取引などの経済学の考え方を中心として経済学の紹介
- ・非常勤講師
久留米大学経済学部：統計学概論ⅠおよびⅡ（2013-2014）平均 150人
経済学部学生のための統計学の基礎
- 緑生館（リハビリテーション専門学校）：統計学（2013-2015）平均 50人
教養としての統計

【添付資料・参考資料(1), (2)】

1.2. 教育組織運営

2012年より、経済学部副学部長（教務担当）であり、学部教育編成および実施を統括している。経済学部は3年前に組織再編されカリキュラムも変更された。カリキュラム移行の円滑な実施に努めた。教養カリキュラムの変更に伴う学部での新設科目開設なども行った。

学部内FDの実施も推進しており、2015年9月に経済学科で「新設科目の内容と教育法」、学部で「専門教育科目に関心を持たせるための工夫」という題目でFDを実施した。これらのFDから学部教員が現実のニュースと結び付けて関心をもたせるようしていること、しかし学生がニュースを知らないことが成果につながらないという教員の不満となっている結果をふまえて、学生全員に電子版の新聞をとらせるという決定を行った。

2. 教育の理念

大学教育の目的は、とくに経済学部では知識の高度化よりも確実な基礎知識と必要なスキルを身につけ、それを社会への関心と結びつけ、自立した思考と判断ができるようになることであると考えている。また、これは佐賀大学が定めている学士力に対応しているものであると考える

上記のような目的は、学生が卒業も職業生活を含めた人生において社会の変化に自らの判断にもとづいて適切に対応していく能力を身につけることであり、このことが教育の理念である。これは、経済学の「社会は比較優位と協業で成り立っている」という考え方にもとづくものである。社会での活躍という以前に、学生が卒業後に社会での自分の位置を定めて生きていくときに、基礎知識とスキルそして社会と自分の関係を認識できることが大切であるという考えにもとづいている。

【添付・参考資料 (3)】

3.1. 理念1 必要なスキルは身につける

文科系の教育では、思想や概念などを重視する傾向もあり、スキルがおろそかになる場合もある。ここでいうスキルとは今の経済学部学生にとっては、PC、英語、簿記会計、統計計算などである。自分が担当する科目ではこれらすべて対応せず限定されたものになるが、ゼミで指導する学生にはこれらを身につけるようにいっている。

またスキルは陳腐化するのでスキルが軽視されることもある。しかしスキルを身につける努力をすることは、考える手段を持つことにつながり、社会に出ても新しい必要なスキルが生じたときに自らがそのスキルを学ぶ能力を得ることにつながる。

この理念は、経済学部に入學してきて、抽象的な学問を前にして悩んでいる学生に、まずここからスタートしなさいとアドバイスするために私がもっている教育理念でもある。

3.2. 理念2 思考のスタイルをつくる

一般的には結論と根拠を結びつける正しい推論を大学教育で学ぶ学問を通じて身につけることが重要であると考えている。この推論は社会経済の問題についてはとくに難しい。しかし社会人が読むビジネスコンサルタントの思考法も基本的には学問の思考スタイルと同じであり、学生には社会に出る前に学問を通じて思考法を身につけてもらうことが必要と考えている。

自分が担当している統計学関連の科目では個別事象をこえた統計的現象を見出すことや不確実性を考慮した判断法といった思考法を学ばせることが教育上重要な理念である。

3.3. 理念3 社会に関心に向け考え学んでいく姿勢を身につける

学生個人が社会への関心を持ち、スキルに支えられた思考をもって自分を取り巻く社会の動向や変化を考え予測し対応できるようにならなければならない。また、大学でえた能力を基盤とし、さらに大学で生涯を通じて学ぶ姿勢を

作り、自分自身能力を向上させていけることが職業生活で自分のためになりそして生活上も楽しいということ知ってもらうことが最も大事な理念である。

さらに、自分で社会事象を正しい推論で考えることを通じて、判断の基底にある自らの価値観そして他者が持っている価値観を理解し、人生を内面的にも豊かに生きていく教育が必要と考えている。

3. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点に重点を置いて教育方法をとっている。

4.1. 方法1 スキルの重視

スキルの重視に対応して統計学入門では計算できることを目標にしている。課題も計算するものとしている。また授業では計算の手順をおって解説し、計算が機械的に適用にならず意識的に計算できるようになるようにしている。このことは計算された量がもつ意味の理解にもつながると考えている。課題および試験は原則電卓で計算するようにしている。これは計算できるということが単にソフトウェアで計算できるということだけでなく、自分で意味を知りながら計算できることを目指しているためである。

ただし、表計算ソフトで計算できるスキルをえることは重要であるので、授業では標準偏差、相関係数、直線のあてはめなど表計算ソフトでの計算も実演し、電卓代わりに使えばわかりやすいこと、関数を使えばさらに簡単であることを伝え、学生にソフトウェア学習の意欲をもたせるようにしている。

【添付・参考資料 (4)】

4.2. 方法2 思考するスタイルを意識させる

思考法を意識することについては、入門ゼミでは金融・経済政策に関して対立する意見が述べられた論説文を細かく論証モデルに基づき分解し、それにもとづき要約を行い、さらにそれをスライド形式にまとめ報告させる授業を行っている。このことを推論のトレーニングのテキストにある短い文章を使った練習をした後で実施するようにしており、これはスキルの重視ともつながっている。

基本統計学では、計算できることも大切にしているが、不確実性があるときの推論の方法であり、また帰納的推論であることをひとつの手法を解説するときには必ず繰り返し説明し、単なる手法の修得にならないようにしている。

【添付・参考資料 (5)、(6)】

4.3. 方法3 社会とのつながりを意識させる

学んでいる学問が社会の中で生きていけることを示すためにニュース記事など導入に使っている。統計が主張の根拠として使われる、根拠となるデータをえるために統計学の考え方がつかわれている記事などを使っている。同時に統計

学の考え方を学べばそれらの記事をクリティカルに読むこともできることを話している。外書講読の受講生は経済学をある程度学んだ学生であるので最新の英文のニュース記事を使い、単に英語を読むのではなく、その経済ニュースを学んだ経済学でどのように読むのかを必ず学生と対話して進めている。対話を重視することはゼミでの学生指導でも大切にしている。これは学生が卒業後営業職につくことが多いので会話できる能力を伸ばしたいもらいたいためでもある。

【添付・参考資料 (7)、(8)】

以上のほかに、教育の理念に関連して、一般に授業科目の実施法では以下のことを原則としている。

- テキストを指定し使用する。
これは、学生の学習の基本はテキストを使って学ぶことにあると考えているからである。同時に、テキストによって自学していく能力と習慣をえることが、学生が卒業を生涯にわたって学んでいく基礎をつくってもらいたいからである（生涯を通じて学ぶ姿勢：教育の理念3に関連）。
- 問題が多いテキストを使用、あるいは問題を補充する。
このことは、学部で経済学入門の講義を担当した際にアメリカの教科書にある多くの簡単な問題が知識の定着と知識の使い方を学ぶよい練習になっていることを実感したことに基づいている。またとくに経済の問題では簡単な問いが機械的に解を求めるだけの作業に終わらず思考を深める契機となり、また学生にそう考えてもほしいからである（思考法を学ぶ：教育の理念2に関連）。
- 事前にスライドを閲覧できるようにする。
授業はスライドを使用している。授業の前に大学のライブキャンパスからダウンロードあるいは閲覧できるようにしている。予習をするように指導してはいないが、学生はスマートフォンを使用しているので、時間がないと思うときでも事前に授業内容を知るために目を通し、授業の方向を念頭において授業にのぞんでももらいたいからである（生涯を通じ学ぶ姿勢：教育の理念3に関連）。
- 課題を出す、復習のポイントを提示する。
今日学んだことは、今日復習するように指導している。簡単な課題を与えることを基本にしているが、ない場合にも復習のポイントを提示するようにしている。1歩でも前進し明日の生活を迎えてほしいからである（考える楽しさを知る：教育の理念3に関連）。

以上のほかに成績の評価においては、以下の点を取り入れている。

- 統計学入門、基本統計学の試験問題は計算問題としているのが、得られた数値が間違っている場合でも、間違っていると気づきそれがなぜ間違っているかを書けば点数を与える。これは計算された統計量がおかしいと気づく力を評価するためにおこなっている。たとえば、割合の95%信頼区間を求めたが、標本割合が含まれていないときに「データでの割合にもとづき誤差をいれて推測するのでおかしい結果です」とあれば高く評価する。

【添付・参考資料 (9)、(10)】

4. 教育を改善するための努力

5.1. 改善努力1 大学の授業アンケートと授業改善報告

大学で実施されている授業改善報告を行い授業の改善につなげるようにしている。声が小さい、授業の速度が速いなどの点は改善を続けてきた。授業内容も自分がこれくらいのことは必要と考える立場から多くをもとめるのではなく、学生が消化できる範囲での重要事項をとりあげるよう努力している。

授業評価でのコメントなどで自分が受け入れられないことがらについては、授業の開始のときに教育の理念にもとづき説明している。

最近の例としては「スライドだけで十分。教科書を買わせるな」というコメントをうけて、生涯に通じて学ぶ姿勢を身につけさせるという理念にしたがい「いつまでも誰かが教えてくれるわけではありません。自分でテキストを読み学ぶ姿勢を身につけなければいけません。」と説明を行った。

5.2. 改善努力2 学生の学力、学んできたことを知る

入試の結果も学生の学力を知るために関心をもってみている。

毎年度できているわけではないが、入学してきた学生が高校までのカリキュラムでどんなことを学んできたのも知るようにしている。とくに統計学については近年高校まででの学習が進んでいるので注意している。学生との会話の中でもどんなことを学んできてどれだけわかったかなどといった話題をもちだすようにしている。このことによって授業で必要のなくなることや学生にとって難しいところを知り、授業内容の改善に生かすようにしている。

5.3. 改善努力3 FDの参加、学生と大学の授業のことを話す

FDに参加し、よいプラクティスを学び改善につなげるよう努力している。2015年度はTBLに関するFDに参加し今後の授業改善につなげることを学ぶことができた。

学生と自分の授業のことだけでなく、他に受講している授業のことを話すようにしている。これは、一般的に今の学生がどのようなことを難しいと考え、どのような場合にやる気がわくのかを知るためである。授業でのものの言い方や話題の持ち出し方に役立てるように努力している。

以上の他には、本務に支障がない限りでおこなう非常勤講師での授業、研修講師などの経験も生かすようにしている。たとえば医療系の学校での統計学の授業のために医療統計分野を自分が勉強することは、経済学部の学生に統計学の有用性を伝えることに役に立っている。

5. 教育の成果・評価

- 統計学入門は、学部の1年生のため入門科目として基礎的事項に絞り授業を展開することで、受講生が経済学科だけでなく、経営学科と経済法学科の学生を含んでいるが、試験の成績は全体的によい結果が出ている。また学生による授業評価は、改善が必要となる水準ではあるが、数学嫌いの学生が多いなかで平均の評価をえている。
- 基本統計学については、学生の成績および評価が低い。これについては今後最も改善が必要である結果として受け取っている。
- 2015年度のゼミ卒業生は「経済学で社会を考える」ことをテーマにしてきた。学んだ知識をもとに対話しながら経済問題を取りあげてきた。最終的に学生の共同によって、「経済における貨幣の役割：仮想通貨の行方」をまとめることができています。現在のトピックを経済学基本知識、さまざまな経済学者の貨幣観などにもとづき仮想通貨の問題と今後の展開を叙述しており、社会の変化を学んだ知識を利用して考える論文となっている。ゼミ卒業生について今年度は100%となった。

【添付・参考資料(11)、(12)】

6. 今後の目標

2016年度から学部長となるため短期的には個人としての目標と学部の教育実施体制に対して目標をもつ。

7.1. 短期目標

- 統計学入門、基本統計学は担当して3年であり、前任者と共同で執筆したテキストを使用してきた。これまでの授業経験にもとづいて、4年目の授業を実施しながら、これまでの授業での学生自分の教育理念と方法そったテキストに改定する作業を行いたい。とくに基本統計学に対応する部分に

については、学生の授業評価と成績に基づいて大幅な見直しを行う。

- 経済学部学生の数学の学力水準に大きなばらつきがあるため、予習を前提とすると、予習が負担になる学生とそうでない学生の差がさらに開き授業の進行が困難になると考えていた。そのため予習を重視していなかったが、FDで学んだTBLにより予習と学生同士での学習を取り入れていく。
- 年度交代で1年生用にミクロ経済学入門を担当することになっている。教員間で各自の考えるよい授業法、試験の結果などを話し合い担当する教員によってばらつきのない優れた経済学入門科目とする。
- 学部教育全体では、現在のカリキュラムが2016年度で4年目となり、卒業生をだすことになるので、実施結果にもとづくカリキュラムの検討と改善に着手する。同時に初年次教育用に学部で作成したテキストの改訂も行う。
- 以上のことを毎年度、授業評価、成績などのエビデンスのよって検証しながら、2019年度までに達成する。

7.2. 長期目標

- 大学入学までに学生が学んできたこと、学生が卒業してもとめられる能力に常に注意をはらい、授業内容の見直しを行っていく。
- また、今後予定される大学入試改革に対応し、入試でもとめた能力が大学でさらに伸長するような教育編成・授業内容も考えていく。

7. 添付資料・参考資料

- (1) 経済学部規則
- (2) オンラインシラバス
- (3) 佐賀大学学資料
- (4) 授業スライド①
- (5) 学生作成スライド
- (6) 授業スライド②
- (7) 授業スライド③
- (8) 外書講読授業資料
- (9) 統計学入門課題
- (10) 基本統計学試験問題
- (11) 授業アンケート結果
- (12) 卒業論文